



志楽小学校だより

舞鶴市立志楽小学校
令和元年度学校だより
第 5 号
令和元年7月23日発行

1学期が終了。「やったね！」と言える夏休みに！



梅雨入りがこれまでに最も遅かった今年の夏。7月は太陽がまぶしい日がほとんどなく、曇り空の毎日で、プールでの学習も少し震えながら・・・という日が多くなってしまいました。しかしながら、校舎の周りには、朝顔やヒマワリ、マリーゴールド、ホウセンカなど、子どもたちが世話をしている花々が咲き、「おはようございます！」の声とともに元気にやってくる 378 名の子どもたちで校舎や校庭は活気にあふれていました。

今年度がスタートして4か月。本日、第1学期の終業式を大きな事故なく迎えることができました。

毎日、雨の日も風の日もダイヤモンドパトロール隊や保護者の皆様に子どもたちの登下校を見守っていただきました。この1学期間、保護者・地域の皆様方の温かいご支援とご協力により、子どもたちは元気をいただいて学校生活が過ごせました。誠にありがとうございました。

一つ一つの取り組みや行事を通して、持てる力を発揮して大きく成長した子どもたち。様々な場面で個々の「よさ」や「可能性」を垣間見ることができました。特に1年生は、この4か月で顔つきが変わるほど、学校生活の中で挑戦を続け、体験を通して、小学生としての力を付けてきました。

さて、明日からは夏休みです。家庭や地域でチャイムの鳴らない生活を過ごします。自立・自律の芽を育てるチャンスです。この機会に、子どもたちに「試行錯誤力」を身に付けさせることを始めませんか。スマホに話しかければ、言葉の意味や情報を調べてくれたり、行きたい所へのナビをしてくれたり、これまでにない変化の激しい社会がやってきている今、子どもたちに必要な力は何でしょう。

ある本によると、それは「試行錯誤力」。つまり「発想力」「決める力」「生きる力」の組合せだそうです。AI に負けない、新しい何かを生み出していく力を付けていくことが必要なのではないのでしょうか。子どもたちの発想は豊かです。その発想のもとに行動を起こします。しかし、それは失敗することがよくあります。失敗したら、次を考える、やり直す、いろいろ考えて、決めて、試して、失敗する・・・失敗してもめげているは次に進みません。失敗にめげず、楽しく前へ進むことのできる力、このような「試行錯誤力」を育てていかなければいけないと感じます。

「失敗した。じゃあ、どうすればいいかな。こうしてみようかな。」と失敗しても逃げない、諦めない体験を夏休みの生活の中で、させてやってもらえませんか。掃除でも、自由研究でも、なんだっていいのです。子どもたちの「挑戦」と「失敗」を支えていただき、「やったね！」と言える経験をさせていただけると嬉しいです。

最後に、ご協力をお願いいたします。同じ校区に住んで支援学校等に通学している児童が夏休み中に地域の行事と一緒に参加できますよう、格別のご配慮をよろしくをお願いいたします。

一番大切なのは、命です。皆様のご健康とこの夏休みが子どもたちにとって事故のない意義のあるものとなりますよう祈念しております。



校長 小森 昌子
教職員 一同

「生きる力」をアップさせる親子のコミュニケーション

「ムリ」「イヤ」「お茶」と一つの言葉だけで会話をいませんか？

学校でも、先生に「チョーク。」「トイレ。」と話している子どもの姿を時々見ます。少し面倒なことをしなければならぬときには「ムリ。」という声があいふつか聞こえます。

もし、子どもが普段、このような一つの言葉でしか会話していなければ、長い文章を読んだり、その意味を理解したりできません。

家族の中では、一言会話でも通じることが多いので、つい、そのまま続けてしまいがちです。しかし、ちゃんと文章で話をする、ということ自体がコミュニケーション力をアップする第一の訓練になります。

もし、一言会話が多いと感じられたら、まず、大人から一言会話にならないようにしてください。そして、子どもが「お茶。」と言ってきたら、「お母さんは(お父さんは)お茶ではありません。」と言いつ返してみてください。きっと、少しずつ文章で話せるようになりますよ。